

第2回 大宮公園グランドデザイン検討委員会

資 料

◆第1回委員会の総括.....	1
1. 第1回委員会における主な意見.....	1
2. 本多静六博士の改良計画と委員会意見の類似点.....	1
3. 第1回委員会意見の分析（意見の可視化と俯瞰）.....	2
I. 大宮公園グランドデザインの基本的な考え方	
～大宮公園と共に歩み、成長する～.....	3
1. 大宮公園グランドデザインの4つの柱と都市の3つの視点.....	3
2. 公園都市へのロードマップ.....	4
3. 公園都市の概念図～グリーンインフラのネットワーク～.....	5
II. 大宮公園の未来像について.....	6
1. 大宮公園グランドデザインの基本方向.....	6
（参考）大宮公園に想いを込めた言葉.....	7

平成30年 2月 7日

埼 玉 県 都 市 整 備 部

大宮公園ランドデザイン検討委員会 検討スケジュールについて

	委員会開催実績・予定
平成29年度 (2回)	<p>10月17日 第1回検討委員会</p> <p><u>2月 7日 第2回検討委員会</u></p>
平成30年度 (3回)	<p>5月 第3回検討委員会（中間とりまとめ）</p> <p>（県民への意見聴取）</p> <p>11月 第4回検討委員会</p> <p>1月 第5回検討委員会（最終とりまとめ）</p>

◆第1回委員会の総括

1. 第1回委員会における主な意見

1) 公園施設、公園利用などに関する意見

- 第一公園は鎮守の森
- 公園の魅力をアピールするネーミング、一般の方にわかりやすいワンワードが必要
- 各公園において、ターゲットを明確にすることが必要
- 鬱蒼とした樹林を明るくし、樹林とのバランスを考えた集いの広場が必要（第一公園）
- 通過だけの細い機能動線から景観的な要素も入れた骨格的な動線の再構築が必要
- 札幌のモエレ沼公園のような、スケール感のある彫刻などは魅力的
- スポーツ施設は他とのすみわけや老朽化・需要を踏まえた組合せ・再配置が必要
- 多様性・柔軟性のある魅力的な施設の集積（ごった煮、フリースペースなど）
- グランドデザインのテーマとしてノスタルジーなどを残すことも必要
- 氷川神社（氷川神社東遺跡）にまつわるパワースポットや参拝者の公園への誘引が重要
- 子供など市民の遊び場の提供、子供の目線や子供達の意見を取り入れる感覚も必要
- 定期的な縁日などのイベントの開催が必要
- 大型スポーツ施設の日常利用（複層利用）、憩いの場として活用
- 環境の時代で、氷川の名を繋ぐ「水」は第二公園、第三公園へ繋ぐテーマ（蛸も含め）
- 埼玉県を疑似体験するプログラム（システム）の導入が必要
- 日常（ケ）と週末（ハレ）*の憧れの場所の提供、公園での過ごし方や楽しみを提供
- 歴史と民俗の博物館や大宮盆栽村を活かせば大宮公園駅側の文化的な見せ方が可能
- 隣接する市営大和田公園とのすみわけや連携が必要

*ハレとケ：柳田國男により見出された、時間論を伴う日本人の伝統的な世界観の一つ
ハレ：祭祀などの非日常の様子、「ハレ舞台」「ハレ着」の言葉に残っている
ケ：日常の様子



第一公園の松林



第二公園の遊水池



第三公園の見沼の広場

2) 公園の維持・管理・運営に関する意見

- 持続可能な公園とするための法改正も踏まえた民間活用、ビジネスの再認識が重要
- 費用対効果やROI（投資効果）などの定量的な判断基準による公園運営が必要
- 魅力ある施設の継続的な運営のため、駐車場や一部施設の有料化、目的税の導入も有効
- 事業者への場所貸ビジネスなどの展開から、維持管理費をまかなうなどの手法が必要
- 公園整備・運営への地元参加と、民間参加による持続可能な仕組みの改革が必要
- 自動運転技術やAI、ロボットの導入による維持管理の改善、コストの抑制が必要
- 公園を利用したイベント手続きの簡略化や弾力的な運用を行なう運営手法が必要

3) 氷川神社、氷川参道に関する意見

- 氷川参道の神秘性と活用のバランス
- 大宮駅ー参道ー第一公園を繋ぐ歩行経路（楽しく歩ける道）で地元を活性化



現在の氷川神社



さいたま新都心から見た氷川参道と氷川神社

4) 観光、まちづくりに関する意見

- 地元で愛される施設となる必要がある、それが内外からの観光へ発展
- 「唯一帝都の理想郷」といわれた公園空間を時代に合わせて実現
- 地域おこしでは、「希少性」「意外性」「地域性」「ストーリー性」が重要
- 大宮駅を中心とした商業施設との連携、大宮駅周辺との一体性のある取組みが必要
- 東日本のターミナル（玄関口）である大宮駅と武蔵一宮氷川神社の特性を活用
- 駅を中心とした、第一公園・第二公園・第三公園を繋ぐ多様な移動手段が必要
- 「健康」「美」「絆」「リセット」「リスタート」で30～40代女性がターゲット

2. 本多静六博士の改良計画と委員会意見の類似点

大正10年に策定された改良計画では、公園拡張による地元への経済波及効果、観光振興に関する提案、拡張後の公園の維持管理などについても言及し、持続可能な公園運営の必要性を説いている。改良計画の内容を第1回委員会意見の1)～4)にあてはめると以下のようまとめられる。委員の意見は、本多静六博士が100年前に大宮公園に寄せた想いと通じるものが多数ある。

1) 公園施設、公園利用などに関すること

- 大宮公園は、都市住民が求める豊かな自然環境を持ち、小旅行の受け皿となる
- 大運動場は、地形を利用した観覧席を設け、各種の遊覧競技の場を完備する
- 氷川公園の魅力は、見沼の水景の発揮にあり最終案は低地部を全て池とする

2) 公園の維持・管理・運営に関すること

- 地元参加の管理団体「保勝会」設立、公園を美しく保つこと

3) 氷川神社、参道に関すること

- 氷川神社社殿裏の森林の拡張、公園と区別するための土塁の築造（神社を敬う）

4) 観光、まちづくりに関すること

- 東京からの人を呼び寄せ、大宮町の発展と埼玉県の経済に資する
- 「名物」を作ることが、遊覧地の存在を世に広め、地元経済に資する
- 公園の紹介としてコマーシャルやサイン（案内板）の設置が必要
- サインは、汽車の時刻表や宿泊場所など、料金を含めて詳細な案内を明記する

I. 大宮公園ランドデザインの基本的な考え方 ～大宮公園と共に歩み、成長する～

1. 大宮公園ランドデザインの4つの柱と都市の3つの視点

第1回の委員会では、右図中央の新たな公園像として4つの柱が示された。また、意見の中にはまちとの関わりが意識された以下の3つの都市的視点が議論の土台として含まれていた。

大宮公園ランドデザインを構成する「大宮公園ランドデザインの4つの柱」と土台となる「都市の3つの視点」のイメージを右図に示す。

【都市の3つの視点】

<暮らしと人>

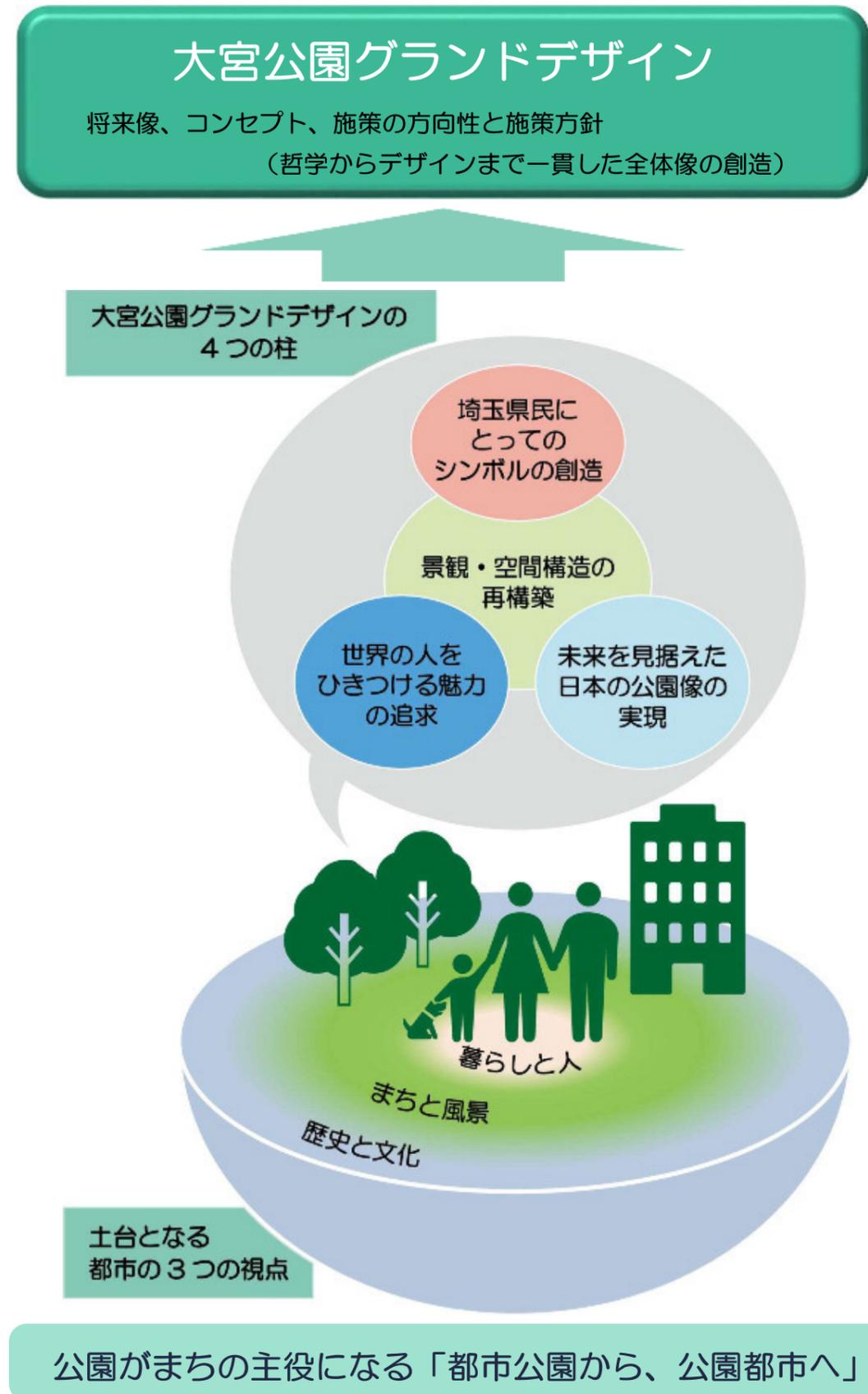
人々が暮らしに豊かさや利便を感じることでできるまちは、愛着が深まり、誇りの地となる。まちや風景、歴史、文化も、その中心には「暮らしと人」がある。

<まちと風景>

コミュニティの醸成は活力あるまちの風景となる。活力あるまちの風景は留まることなく広報力、行動力、展開力をもって、さらにまちの外へと広がっていく。

<歴史と文化>

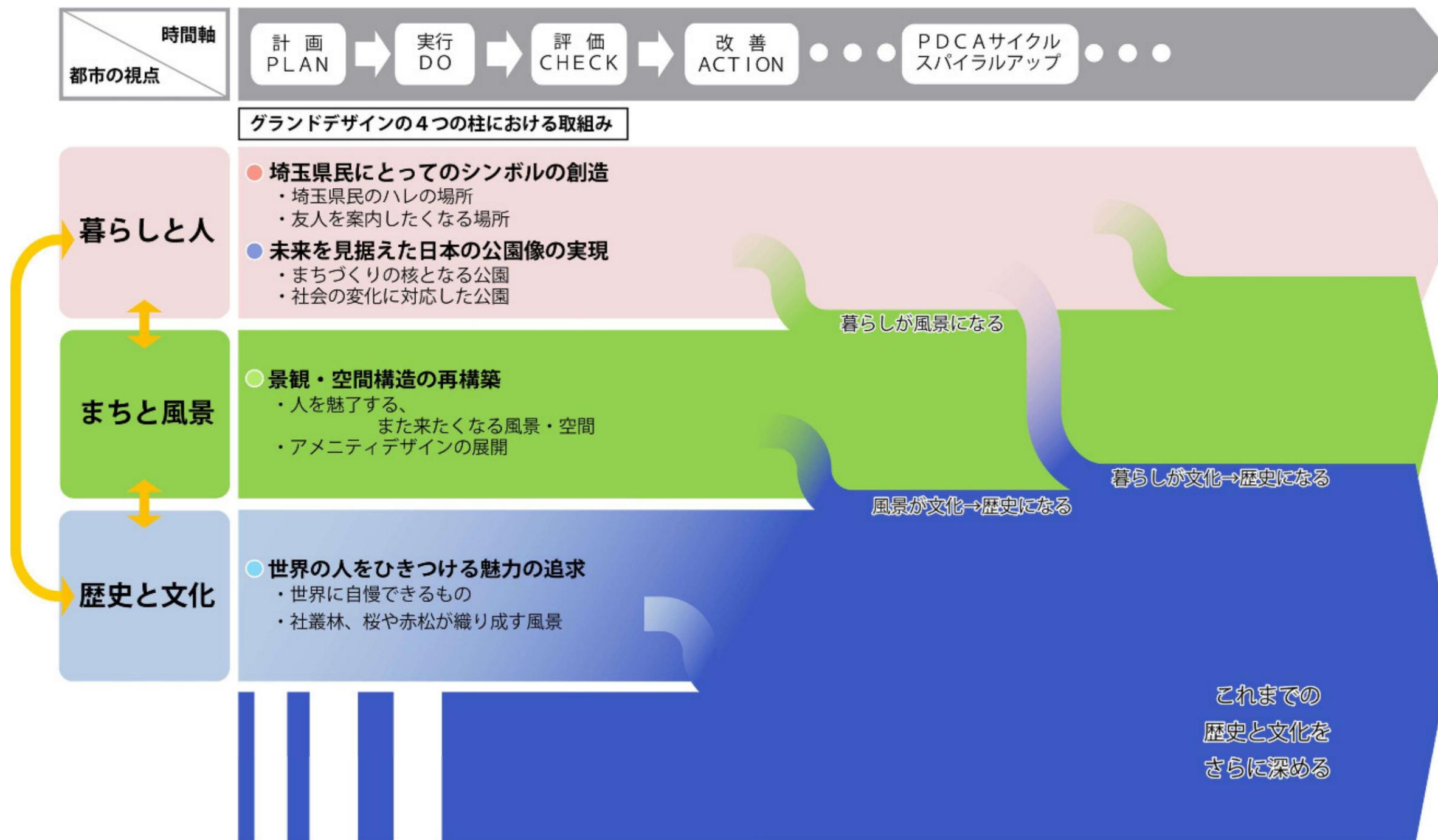
これまでの暮らしと人、まちと風景が積み重なり、深まり、そのまちの歴史や文化になっていく。



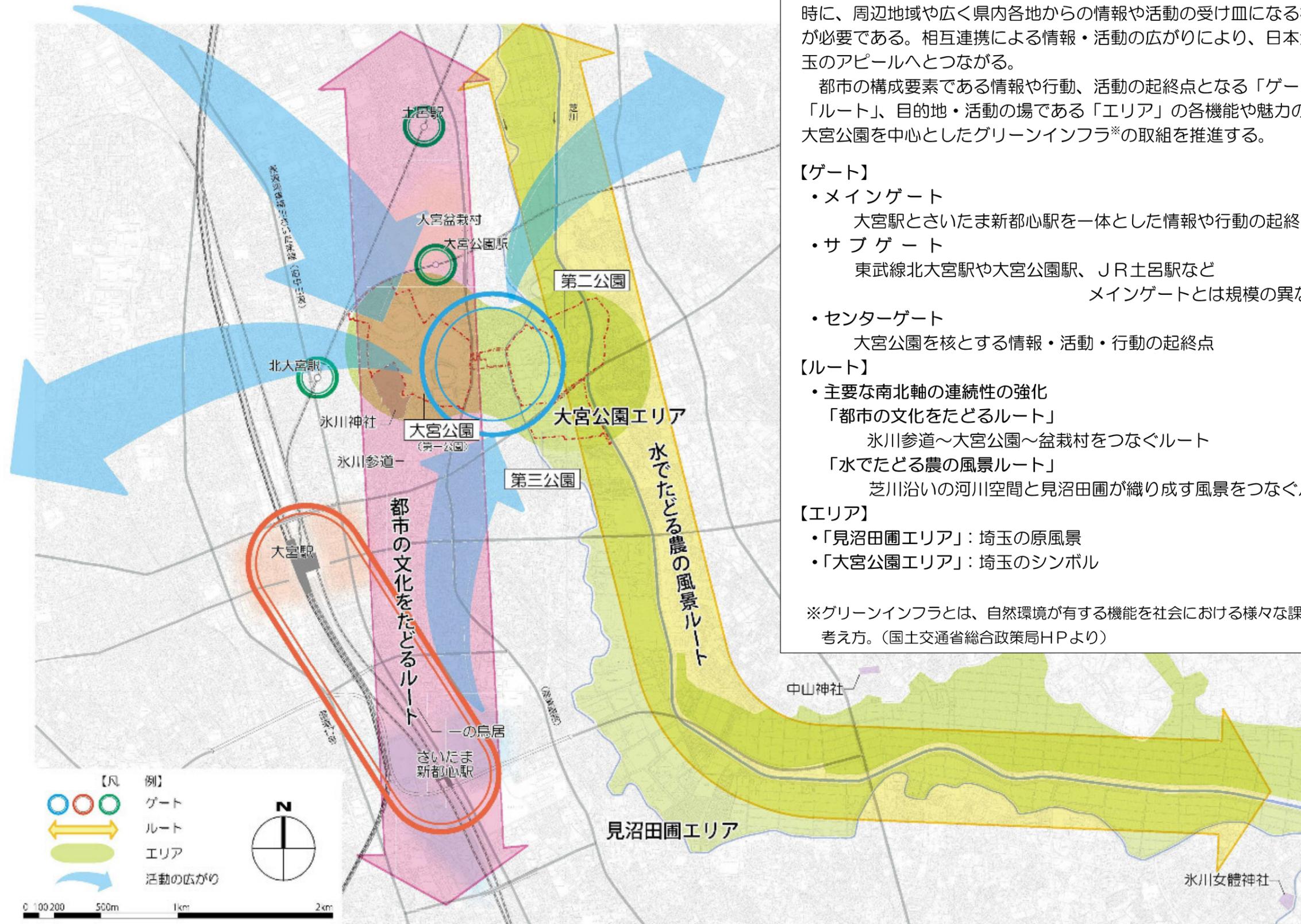
2. 公園都市へのロードマップ

ランドデザインは、100年先を見る超長期の時間軸を意識して検討を行うことが重要である。

下図は、横軸に時間軸、縦軸に都市の3つの視点と大宮公園ランドデザインの4つの柱による取組みを示している。4つの柱による取組みの継続と醸成が人の暮らしに寄与し、まちの風景となり、まちの文化や歴史に連なっていくことを示している。



3. 公園都市の概念図 ~グリーンインフラのネットワーク~



本図は、公園が広く周辺のまちと相互連携する公園都市の概念を示したものである。公園都市の実現には、大宮公園の実行力を公園からまちへ、都市へと広げることと同時に、周辺地域や広く県内各地からの情報や活動の受け皿になる相互連携による好循環が必要である。相互連携による情報・活動の広がりにより、日本全国や世界各地への埼玉のアピールへとつながる。

都市の構成要素である情報や行動、活動の起終点となる「ゲート」、移動経路となる「ルート」、目的地・活動の場である「エリア」の各機能や魅力の向上を図るとともに、大宮公園を中心としたグリーンインフラ*の取組を推進する。

【ゲート】

- **メインゲート**
大宮駅とさいたま新都心駅を一体とした情報や行動の起終点
- **サブゲート**
東武線北大宮駅や大宮公園駅、JR土呂駅など
メインゲートとは規模の異なる情報や行動の起終点
- **センターゲート**
大宮公園を核とする情報・活動・行動の起終点

【ルート】

- **主要な南北軸の連続性の強化**
「都市の文化をたどるルート」
氷川参道～大宮公園～盆栽村をつなぐルート
- **「水でたどる農の風景ルート」**
芝川沿いの河川空間と見沼田圃が織り成す風景をつなぐルート

【エリア】

- 「見沼田圃エリア」：埼玉の原風景
- 「大宮公園エリア」：埼玉のシンボル

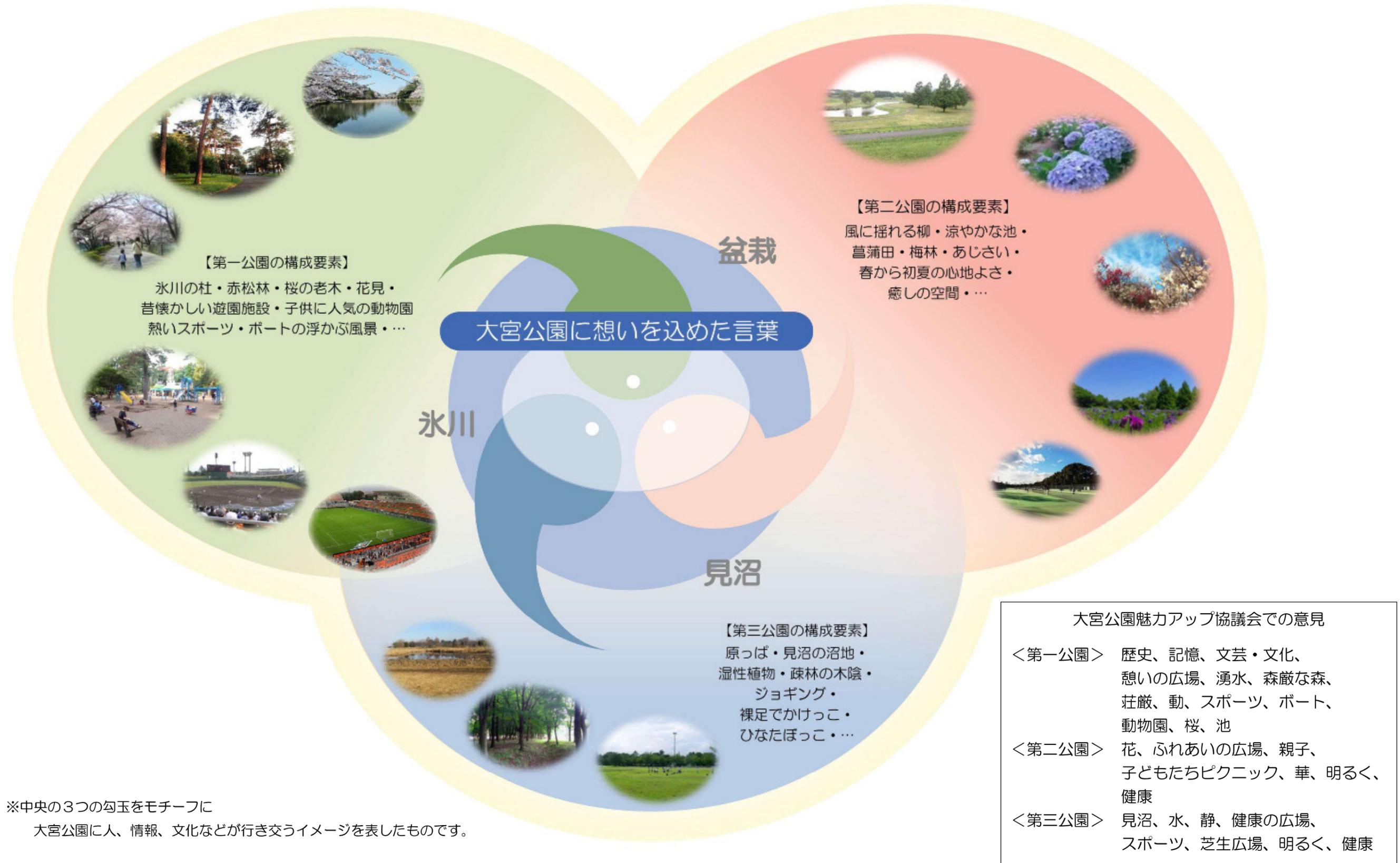
*グリーンインフラとは、自然環境が有する機能を社会における様々な課題解決に活用しようとする考え方。(国土交通省総合政策局HPより)

Ⅱ. 大宮公園の未来像について

1. 大宮公園ランドデザインの基本方向

第1回検討委員会意見を踏まえ大宮公園らしさを深めるテーマをまとめた。大宮公園の核となる特徴を未来に継承すると共に、さらに、視野を広げ次代を見据えて大宮公園のランドデザインの基本方向について議論を行なう。

大宮公園の本質と特質を表すテーマ	大宮公園ランドデザインの基本方向	委員の意見から
<緑地、空間> 大宮公園の総合力 すべての埼玉県民のひろば	○大宮公園、大宮第二公園、大宮第三公園で良いか？ ○大宮公園はひとつ 67haのオープンスペースのパワーを活かす	<ul style="list-style-type: none"> ・参道、氷川神社、大宮公園一体で考える必要がある ・公園は価値が変わらずそこにあることでもある ・原風景、懐かしい公園が一番大事なポイント ・魅力的な施設の集積で連続性を生み、滞在時間・消費を拡大する ・3つの公園を結び付けるアクセス手段の検討 ・親子・カップル・外国人も引き付ける「ごった煮」、ハイブリットな魅力を詰める ・余白を残す。フリーグラウンドのようなものがあると良い
<歴史> 氷川神社と社叢 (歴史的緑地)	○大宮公園は氷川神社境内、境外そのもの ○参道から本殿、社叢、 そして林苑でのくつろぎとレクリエーション	<ul style="list-style-type: none"> ・テーマ性として氷川神社、社叢の森の重視 ・氷川神社を中心とした歴史と文化の魅力 ・氷川神社との関連性や神秘性の発信 ・氷川神社年間600万人の参拝者を誘う動線の構築 ・氷川神社東遺跡の活用
<環境> 氷川にはじまるエコロジー	○氷川神社は湧水にはじまる ○氷川から見沼へ水系と水景、生き物とエコロジーシステム	<ul style="list-style-type: none"> ・氷川神社は水の神様 ・見沼まで連続したエコロジカルシステム ・水の流れ、水遊び場の確保が理想
<スポーツ> これからのスポーツと レクリエーション	○彩の国のスポーツとイベントの拠点 ○緑の中のアクティブレクリエーションはいかに？	<ul style="list-style-type: none"> ・試合の有無に関係なく、常に賑わう憩いの場がスタジアムの方向 ・100年後には現場で見るギャンブルは成立しなくなるのではないか ・ファンが減少する中での競輪場のあり方
<観光> 彩の国の光・かがやき 世界へ発信	○埼玉県民のハートコアであり、ランドマークたるべき場所 (園内外をひとつの公園都市として国内外にアピール) ○氷川がつなぐ歴史の森、 武蔵野の自然につつまれた 生活・文化・芸術へのトータルな県民活動の拠点、 日本文化の世界発信	<ul style="list-style-type: none"> ・希少性、意外性、地域性、ストーリー性の充実 ・観光の源流は地元で愛される地域 ・観光は普遍的に健康、美、絆がキーワード ・埼玉で自転車を活かす街おこしが考えられれば良い ・世界的に注目されている盆栽の公園要素の取込み ・埼玉や東日本の魅力を大宮公園で見たり、疑似体験できたりすると良い



※中央の3つの勾玉をモチーフに
大宮公園に人、情報、文化などが行き交うイメージを表したものです。